

住まいと生活の情報誌

せきれい

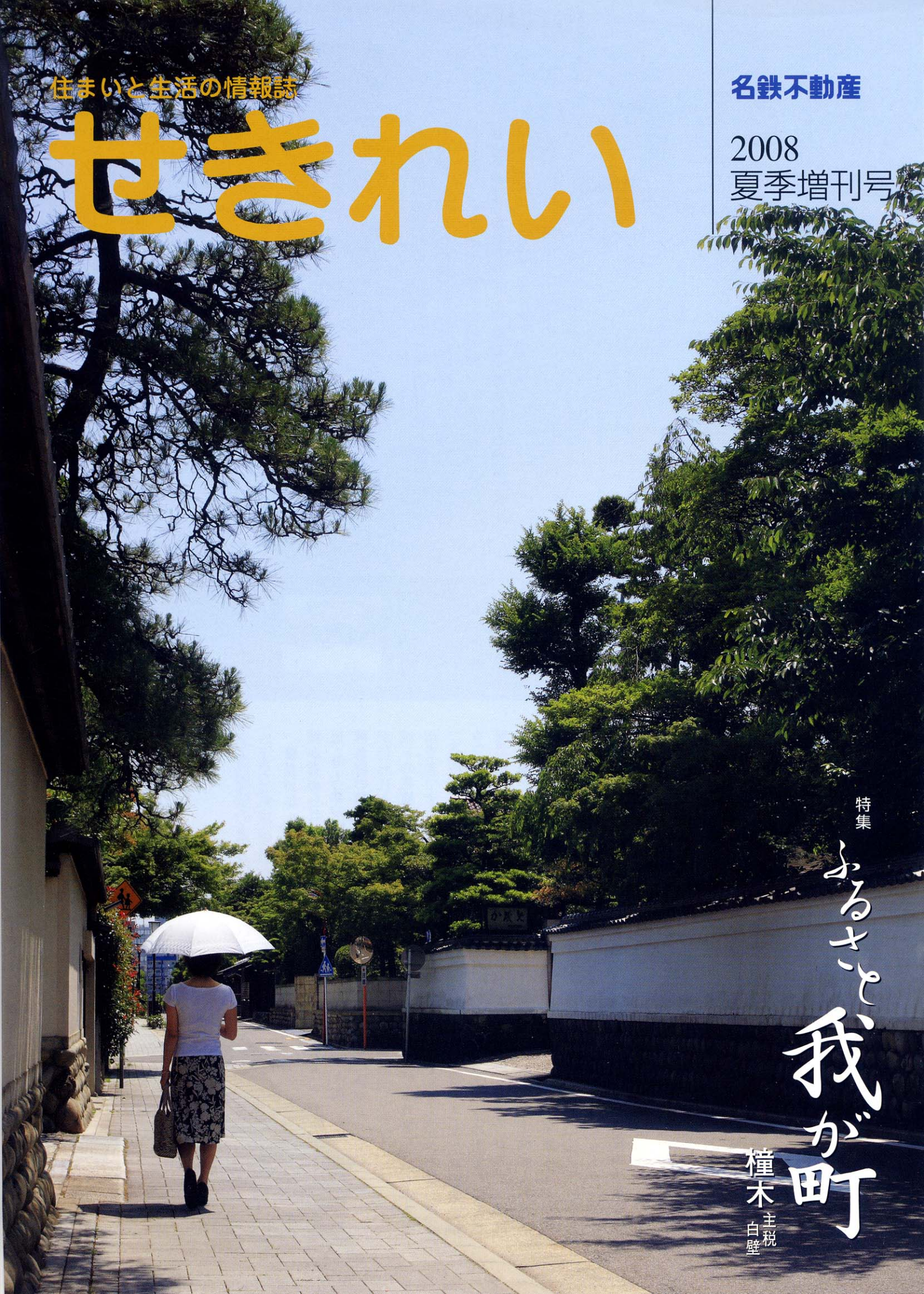
名鉄不動産

2008
夏季増刊号

特集

ふるさと
我が町

榎木 主税
白壁





武家屋敷から財界の住宅地へ

名古屋城の築城とともに生まれた尾張藩武家屋敷町、中級武士に割り当てられた約600〜700坪の敷地には、大正から昭和初期にかけて名古屋の財界人が移り住み、近代洋風建築の立ち並ぶ高級住宅地となりました。現在もその風情を色濃く残す、**榎木、主税、白壁界隈を訪ねます**

我が町 榎木 主税 白壁 界隈

●宝永6年(1709)の作と推定される尾府名古屋図 (名古屋市蓬左文庫所蔵) ※山吹谷公園の案内板より



名古屋城の東方に生まれた 巨大な武家屋敷町

慶長15年(1610)から名古屋城の築城が進められ、同時に武家地・寺社地・町人地の区画割り(地割り)と清洲各町の移転先の割り当て(町割り)が行われました。普請奉行として城下の整備に当たったのは松井武兵衛重親です。城の守りは、木曾川を一次防衛、庄内川を二次防衛、城郭を三次防衛とし、城下町は、一丁(約100m四方)の整然とした条坊制の都市計画で、屋敷割りは城を囲むように配置されました。

まず、城下防衛の見地から、寺院は南と東と西に大中小の寺町を形成する形で置かれ、南寺町(大須エリ)は50か寺、東寺町(東桜エリ)は40か寺とし、南と比べて、東は徳川家の菩提寺である建中寺をのぞいて小規模な敷地配置がなされました。これは、南寺町が豊臣方を睨んで寺の境内を陣地として利用できるよう、それぞれに広大な敷地を確保したのに対し、東寺町は飯田街道からの援軍の宿舎としてであり、西寺町は美濃からの援軍を待機させるため、万一最前線である南寺町が敵軍の



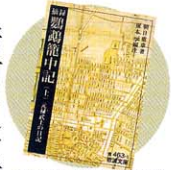
手に落ちた際には、東と西に配備した援軍とともに碁盤割りと呼ばれた町人町を戦場に、城を守るといふ、平城でありながら不落の要害として計画されました。武家屋敷の配置についても、城の南側には上級武士の屋敷を置き、東方または南方に下るに従って下級武士の屋敷が配置され、武家屋敷の面影が残る榎木、主税、白壁の一角は、600から700坪(約2000〜2300坪)ほどの区画で、三百石級の組頭階級を中心に、学者・文化人、藩に仕えた医師、鋳物師頭などの職人の屋敷に割り当てられました。さらに、建中寺の東から南にかけては同心の組屋敷で、現在の東片端から南は、中堅の武家屋敷、御下屋敷の東南には下級武士の屋敷が続きました。町人町の碁盤の目に対して、武家屋敷の町の道路には、外敵に対する防備を考慮してT字型や交差路の食い違いが設けられています。

※八事を経て岡崎に至る街道で駿河街道とも呼ばれた。

武家が去った後も 受け継がれた町の風格

江戸時代、武士の身分は厳格に定められ、それぞれに身分に準じた門を構えていました。「主税町長屋門」は、尾張藩では五百石前後の武士が構えたものと考えられています。長屋門は、家臣や使用人の住まいに長屋を建て、その一部を門とした建物で、構造についても、規格が定められていました。武家屋敷での長屋門は、壁に漆喰を使うのが許可されたのに対し、民家での壁については板張りでした。現地の案内板には、「この門についている出格子付き番所（武者窓）は武家屋敷のみに設けることが許されたもので、江戸中期の城下図には、平岩氏、幕末の城下図には、室賀氏の名前が記載されています。明治時代は第三師団の長官舎、昭和には佐藤氏の屋敷門として使用されましたが、その後、塀及び長屋の一部が撤去され、現在の大きくなりました」と、書かれています。江戸期から明治期にかけて、この地区に屋敷を構えた著名な人物では、幕末の尾張藩重臣の渡辺新左衛門、田宮如雲、田中不二麿のほか、元尾張藩士で名古屋近代化の功労者である吉田禄在、元尾張藩士で後に初代名古屋市長になった中村修などがいます。明治の新政府により諸藩の土地が返還となった後は、近代の中部や日本を支える財界の名士がこの地を好んで移り

住むようになり、武家屋敷の構えに洋館の姿が加わって、現在の街並みが築かれていきました。



鷗館中記(岩波文庫)

さて、江戸中期の藩士で「鷗館中記」(元禄4年(1691)から享保2年(1717)までの日記)の著者として有名な朝日文左衛門の屋敷も、主税町筋にありました。文左衛門は、元禄7年(1694)21歳で家督を継ぎ、御城代組・御本丸御番、知行百石となり、元禄13年(1700)27歳の時、御置奉行となっており、8日に1日出勤という勤務形態で、暇を持て余した暮らしが日記に記されています。昭和61年(1986)には、「元禄サラーイマン考・朝日文左衛門の日記」というタイトルでドラマ化され、地元の民放で放送されました。

※1 尾張藩2代藩主・光友が延宝7年(1679)に名古屋城下の東部(現在の葵町から代官町に至る6万4000坪)に、休息と饗応のための別邸として造った屋敷。元禄6年(1693)に藩主の地位を長男綱誠に譲ると、自らは大曾根御下屋敷(現在の徳川園)を造り隠居所とした。同地には成瀬、石河、渡辺家などの重臣の下屋敷があった。

渡辺新左衛門 幕末、藩論を短期間に勤王に統一するた
め起こした佐幕派弾圧事件(書松事件)で処刑された。
藩内に多数ある同族一門と区別するため青松葉家の名
で呼ばれた。
田宮如雲 幕末に藩政改革を断行した後、安政の大獄に
て藩主・慶勝とともに幽閉された。
田中不二麿 丹羽賢らとともに尾張藩の尊皇攘夷派に加
わって勤王を唱え、藩内の佐幕派を抑えて藩論を討幕
の方向に進めた一人。
吉田禄在 東海道線の整備、名古屋停車場(笹島)と広小
路通を結ぶ道路の整備、宮内省へ献納された名古屋城
中誠の返還など数多くの事業を敢行。
中村修 幕末は、尾張藩の勤王論に大きな影響を与えた。
明治29年、名古屋市長誕生すると市長に推され、初代
名古屋市長として市政に尽力した。



●武者窓が武家屋敷の風格を表す主税町長屋門



座

談

会

大正昭和の 榎木主税 白壁 界限

近代洋風建築の優れた建物が集中する榎木・主税・白壁。明治以降、財界人に住まいとして選ばれてきた理由とは、また、そこに育まれた文化とは……。伝統的な建築遺産を守り伝える料亭「か茂免」に、「文化のみち二葉館」前副館長で「東区榎木町界限」の著者・西尾典祐さんをお招きし、語っていただきました。



■この町と「か茂免」の50年を知る

料亭「か茂免」料理長
片山英喬さん



■新しい感性で伝統と継承を考える

料亭「か茂免」若女将
船橋まゆみさん



■榎木町界限の歴史文化を伝える

「文化のみち二葉館」前副館長
「東区榎木町界限」著者

西尾典祐さん

中部バンククラブ理事
日本都々逸協会理事

界限の名残を探して

船橋 「か茂免」の土地屋敷は、大正期に洋紙業で成功された中井巳次郎氏の名古屋別邸で、戦時中は師団長の宿舍として提供されていました。空襲で店が焼けて新しい用地を探していた先代主人を戦後の混乱時にわざわざ探してください、この地で昭和23年(1948)に再開させていただいたと伺っております。

西尾 巳次郎は、京都の紙問屋中井家の二男で、支店長になるところを、自ら降格して平社員からスタートし、明治43年(1910)に名古屋支店長になっています。名古屋紙商同業組合を設立するなど、中部に大きな足跡を残した人物です。名古屋新聞(現中日新聞)が行った募金運動では、10円、20円という当時としては大層な額を包んでいます。中井家の財力は、この屋敷を見れば自ずと分かることです。

片山 現在は2階建てですが、本来は3階建てで、3階の部分は四方が見渡せる櫓のように造られていました。それから庭には防空壕が残っています。入り口が2か所あり、広さは8畳ほど。鯉節を削るのに利用しました。夏場でも10分いると肌寒くなるほどで、毛布を持って入ったものです。消防法の関係で現在は貯水槽として使っています。

西尾 榎木館にも地下室がありますが、ひんやりしていますよ。榎木界限の宅地は平均的に600坪ほどありますね。

片山 こゝは100坪なんです、元は700坪で、

戦前戦中、皇族の東久邇宮稔彦王(戦後最初の内閣総理大臣)の居所に使われたため、お隣から300坪を購入して防空壕を造ったそうです。



都心近くでありながら、木々が多く、ゆったりとした街並み。

西尾 戦争では、主税町の方で、焼夷弾をピアノが止めたという話もありますが、榎木・主税・白壁にはあまり爆弾は落ちていないんですよ。第三師団のいた名古屋城と三菱重工(天曾根)の中間で標的から外れたとも言えますが、トヨタは軍需施設ではなかったし、穿った見方をすれば、没収できることを見越して残したのではないかと。

船橋 差し押さえるために残した？

西尾 そうです。住むために。白壁にある中京教会は焼けているんですが、これは誤射だったと言われています。

船橋 この界隈は、財界人のお屋敷町でしたからね。うなづけます。

西尾 現在、榎木館として公開されているのは井元為三郎邸、その一筋北には春田鉄次郎邸があり、ともに陶磁器を輸出する貿易商として成功した人物です。そのほかノリタケカンパニーの創始者、森村市左衛門も住んでいました。醸造業を

営む盛田家もあり、ソニーの盛田昭夫が生まれ育っています。白壁5丁目に敷島製パンの本社がありますが、創業者の盛田善平は親戚に当たります。

船橋 豊田家は、佐吉、佐助、利三郎、喜一郎様等のビッグネームが並びますね。

西尾 豊田佐吉の片腕として活躍した西川秋次もいますよ。

私が注目しているのは、矢田績で、彼は三井銀行名古屋支店の立て直しという名目で来たんですね。将来性のある人物や企業に積極的に投資をし、豊田佐吉を助け、自動織機の事業を支えました。二葉館や電力王で知られる福沢桃介を、出発点である名古屋電灯に誘ったのも矢田績です。まさに明治から戦前における中部財界のキーマンで、銀行退職後は、「榎木町倶楽部」と称して自宅を開放し、経済人や文化人の交流を図りました。また私財を投じて「名古屋公衆図書館」(西図書館の前身)を設立しています。

この知的な風土の中、白壁町で代々、地主総代であった久野家から、新感覚派作家、久野豊彦が生まれています。

片山 豊田(喜一郎)さんのお宅が壊される

ときには、ご近所の皆さんが集まって偲ぶ宴会をされましたよ。

西尾 喜一郎



大正～昭和の初期の高級住宅街の面影を今も残す街並み。

が転居していったのは、周りが親戚や関係者ばかりでうるさかつたんでしょうね(笑)。

西尾 ところで、喜劇俳優の古川録波が随筆の中で、「戦前、名古屋で美味しいものは『か茂免』の豚の角煮、ぐらいしか覚えていない」と書いています。

片山 か茂免の主人は、美味しいものは何でも採り入れるという考えの人で、肉類も扱っていました。ところが当時の日本料理といえば懐石(茶事のもてなし料理)です。肉を使うとは何事かという向きもあったようですが、評判になるに従って、角煮を出す贅沢な会席として知られるようになりました。

西尾 箸でちぎれる角煮ですね(笑)。

片山 そうです。私がこちらに来たのは50年前ですが、フランス料理の料理人もいました。和洋折衷はその当時からで、カレーライスもお出ししていましたよ(笑)。商工会議所の会頭を務められた佐々部晩穂さんも「うちの隣のメシ屋」と財界に広めてくださいますよ、お客様の外国車が、豊田(喜一郎)さんの所まで連なるとほど。昭和30年代の話ですよ。

船橋 この場所にある料亭で良かったと思いますね。街並みの一員でいられることもうれしいことです。ご近所に育てていただいたんですね。

西尾 これだけの屋敷町が残ったのは、不便の便だと思っんです。駅も近くなく、コンビニや自販機もありません。街並みや雰囲気を保つには、便利になつてはいけ

ないんですね。残すのは難しいことです。が、荒れると価値がありません。それだけに、この街も風景も、そして「か茂免」も、名古屋の大切な文化財産なのです。

料亭



昭和3年に中区島田町で、ふく(河豚)と鶏(名古屋コーチン)の水炊き専門店として創業。一室ごとに特徴があり、名古屋城の丸にあった「猿面茶屋」を模した離れの茶室や、見事な庭園からなっています。披露宴は1日1組のみ。結納、法事、お茶会、展示会、クラス会にも。



大正8年建造の洋館と、大小10室の数寄屋(茶室)風の座敷が、回廊で結ばれる贅沢な造り。大正のモダニズムと伝統的な美しさを堪能できる行まい。

●名古屋市中区白壁4-85
●TEL 052-931-8506 婚礼専用 052-931-4560

旧豊田佐助邸



【建築年代】大正12年(1923)
【指定】伝統的建造物
豊田佐吉の実弟、豊田佐助が住んでいました。和洋併設でタイル張りの、2階建て洋館と2階建て和風建築です。洋館の裏手にあった建物は老朽化のため平成7年に解体されています。現在は愛知県内の企業が所有しており、名古屋市が維持管理を行っています。当時、長瀬町に佐吉邸、白壁町に豊田喜一郎邸と豊田利三郎邸もありましたが、住宅が現存するのはこの豊田佐助邸のみとなっています。

故春田鉄次郎邸

【建築年代】大正14年(1925)
【指定】伝統的建造物
陶磁器貿易商として成功し、太平洋商工株式会社を設立した春田鉄次郎の旧邸で、「関西建築界の父」とも言われる、武田五二設計によるものです。洋館と中庭を挟んで奥にある和館で構成されています。春田邸は昭和22年(1947)から昭和26年(1951)まで、米軍第五航空隊司令部により一時接収されました。現在は、一部を創作フランス料理「デユボネ」として営業、一部を見学者用に開放しています。

春田文化集合住宅

【建築年代】昭和37年
故春田鉄次郎邸と同じく武田五二による設計で、都市住宅の草分け的存在。中庭を囲む12軒の洋風建物が、通りに対して逆Uの字を描いて配置されたタウンハウスで、通り沿いの1棟は主税町集会所としても使われました。



料亭 香楽

【建築年代】明治34年(1901)
現在は、創業70年以上の料亭として利用されて、武家屋敷の面影を色濃く残しています。西隣は、レンガ塀に囲まれた三菱東京UFJ銀行主税町クラブ。



カトリック主税町教会

【建築年代】礼拝堂・明治37年(1904)、司祭館・昭和5年(1930)
【指定】都市景観重要建築物
名古屋・岐阜地方に初めてカトリックの教えを広めた井上秀齋が、テュルバン神父と共に造った教会。礼拝堂は正面玄関ポーチを三連アーチで構成し、白漆喰と黒い柱が印象的です。伊勢湾台風後に側廊が増築され、三廊式となりました。鐘楼(復元)の鐘は百年前の製作。



文化のみち 二葉館

【建築年代】平成17年(2005)移築復元
【指定】国登録文化財
大正時代から近年まで現存していた建物をベースに、移築・復元を行った貴重な文化財です。日本初の女優川上貞奴と電力王福沢桃介が暮らした屋敷で、赤い屋根、車寄せのあるロタリーなど特徴的な外観や、社交場であった大広間など、創建当時の優美さが復元されています。創建当時に使われた部材を使用し、足りない部分は創建当時の材料や技術を再現する形で建てられています。現在は、名古屋市が「文化のみち」のさまざまな情報を発信するとともに、川上貞奴に関する資料や郷土ゆかりの文学資料を展示しています。



文化のみち 種木館

【建築年代】大正15年(1926)
【指定】名古屋有形文化財/伝統的建造物
陶磁器輸出商であり、名古屋陶磁器貿易商工業組合長として活躍した井元為三郎の旧邸。二階建ての洋館と日本茶室、茶室、東西二棟の蔵が残っています。現在は名古屋市の所有となり、「種木館」として平成19年4月から建物等を公開するとともに、市民クラブによる催しが行われています。



旧矢田績邸

【建築年代】大正14年(1925)
明治の中部財界の旧屋敷。

伊藤家住宅

【建築年代】大正5年(1916頃)
【指定】都市景観重要建築物
玄関は、通りに直交した路地に設けられており、路地状の空間と種木町筋に面して棧瓦葺、漆喰塗、堅羽目板張、駒寄せのある塀が特徴です。



大森家住宅

【建築年代】大正5年頃
【指定】都市景観重要建築物
木造棧瓦葺の腕木門で、塀は白漆喰塗、堅羽目板張の伝統的な日本建築です。伊藤家住宅と同様に塀の前には駒寄せが設けられています。



種木町老丁目長屋

【建築年代】明治中期
築120年の商家で、北側がイタリヤ料理の店「アソテイヤ」。そして長屋の南側の路地を入ると奥には「種木庵」という家屋があり、文化塾という表札がかかっています。板塀に挟まれた閉所ともいえる貴重な路地空間も残されています。



愛知県議員会館

【建築年代】大正9年(1920)
大正年間に名古屋市長(第9代)を務めた大喜多虎之助の旧邸。西から入った建物で、正面に洋館、その奥には和風の住宅が連なっています。現在は議員会館として、主に議員の宿泊施設に使われていて、一般公開はしていません。



市政資料館

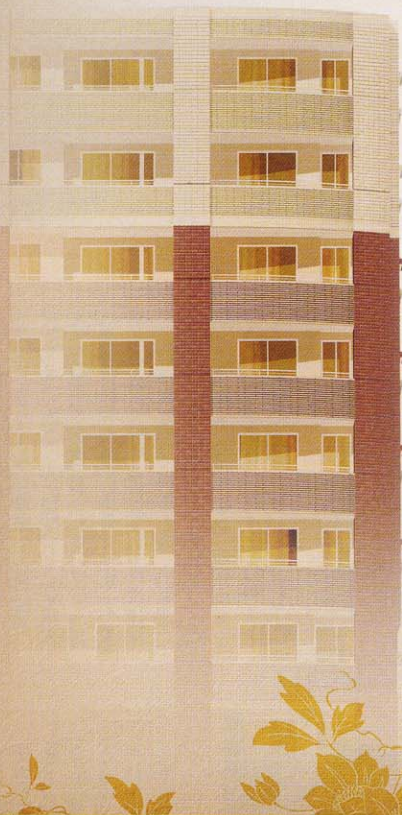
【建築年代】大正11年(1922)
【指定】重要文化財
名古屋控訴院・地方裁判所・区裁判所庁舎として建設され、昭和54年(1979)まで、中部地方の司法の中心としての役割を果たしてきた歴史ある建物。昭和59年(1984)には国の重要文化財に指定されています。レンガ造りのネオバロック様式を基調とした建物で、現存する控訴院の建物としては最古。市政、司法に関する資料の展示、集会室の貸し出しなど、一般公開されています。



都市の品格が、ここに

歴史・文化薫る、奥ゆかしき都心に住まう

かつて、名だたる武家屋敷が立ち並んだ、榑木町一丁目界隈。明治・大正期に大いなる功績を残した日本産業界の名士たちも愛したこの町は、今も、歴史情緒溢れる趣深い雰囲気満ちている。栄まで1km圏内。都市の喧騒の中に住まうのではなく、都市に触れていられる距離に住む心地よさも享受でき、現代においての利便性も十分に備えている。そんな町の魅力を余すところなく楽しむことができる邸宅。それが、「プレティナレジデンス榑木町」。細部にまでこだわり抜いた共用部と専有部。高いプライバシー性能を誇る、全住戸角部屋全26邸。選ばれし者だけが得られる、暮らしがここに。



※外観完成予想図/図面を基に描いたもので、実際とは多少異なります。



プレティナレジデンス榑木町

7月中旬予約制事前内覧会開催

※詳しくは、電話・ハガキ・ホームページからお問い合わせください。

■プレティナレジデンス榑木町物件概要 ●所在地/名古屋市中区榑木町1丁目30番 ●交通/地下鉄桜通線「久屋大通」駅 徒歩11分 地下鉄桜通線「高岳」駅 徒歩10分 名鉄瀬戸線「東大手」駅 徒歩9分 ●用途地域/近隣商業地域、準防火地域 ●敷地面積/795.31㎡ ●構造/規模/鉄筋コンクリート造地上14階 ●建築確認番号/第ER107020457号(平成19年10月30日) ●間取り/3LDK・4LDK ●専有面積/75.82㎡~95.22㎡ ●バルコニー面積/8.99㎡~12.02㎡ ●販売価格/未定 ●管理形態/管理組合を結成していただき、管理会社に委託予定 ●完成予定/平成21年2月下旬 ●入居予定/平成21年3月下旬 ●総戸数/26戸 ●販売戸数/未定 ●事業主・売主/名鉄不動産株式会社 ●販売代理/住友不動産販売株式会社 ●設計・監理/柴山コンサルタント株式会社 ●施工(建設・請負)/株式会社日東建設

予告広告

この広告は予告広告です。販売を開始するまでは、契約または予約に一切応じられません。また、申込の順位の確保に関する措置は講じられません。販売開始予定時期/平成20年7月下旬。全ての販売予定戸数を一括して販売するか、または数期に分けて販売するかが確定していないため、物件概要は全ての販売対象住戸のものを表示しています。確定情報は本広告において明示します。※メールでの情報配信が不要な方はお手数ですが右記までご連絡ください。 住友不動産販売株式会社 TEL 052-950-7671

お問い合わせは「プレティナレジデンス榑木町」プロジェクト室まで
0120-758-260

携帯電話・PHSからもご利用いただけます。

www.shumoku.com/

プレティナレジデンス 榑木町 検索

(売主)

名鉄不動産

免許番号国土交通大臣(13)第337号(社)不動産協会会員
(社)中部不動産協会 東海不動産公正取引協議会加盟
本社/名古屋市中区牛島町6番1号(名古屋ルーセントタワー8階)
〒451-6006 TEL (052) 581-1278

(販売代理)



住友不動産販売

【東海販売センター】〒460-0004 名古屋市中区新栄町1丁目5番地
白石ビルディング4F TEL052-950-7671 FAX052-951-3230
免許番号国土交通大臣(10)第2077号(社)不動産協会会員
(社)首都圏不動産公正取引協議会加盟(社)不動産流通経営協議会会員

